

Feature Articles

地域と共に50年 「日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード」

8 特別対談

高橋杏輔氏 (株)大垣ケーブルテレビ &
音 好宏氏 上智大学文学部新聞学科 教授 兼 日本ケーブルテレビ大賞 審査員長

12 贈賞式レポート

大垣ケーブルテレビがグランプリ総務大臣賞受賞

14 グランプリ受賞50作品

最多受賞は(株)ぴ〜ぶる [5回受賞]

韓国コンテンツビジネスの新潮流を探る

16 韓国コンテンツ振興院 東京ビジネスセンター

18 KBS JAPAN

20 Re:Born

21 〈TOPIC〉Asia Video Industry Association (AVIA)

Series

6 TOKAIグループの未来戦略

第7回:協業力を活かしたさらなる成長を目指して

Series Articles and Columns

- 22 ミュージックツーリズムの可能性 ⑨ 文/八木良太
24 放送ビジネスの政治経済学 ⑩ 文/音 好宏
26 世界のメディア曼陀羅華「BS放送開始35年、料金値上げ満1年」 ⑪ 文/猪股英紀
32 地産飛翔〜ケーブルビジネス関連動向(気になるトピック / 機器チェック!)
36 サテライト業界の潮流を探る ⑫ 取材・文/神谷直亮
38 アジア衛星TV & 宇宙ビジネス最新情報 ⑬ 文/長瀬博之
40 日本で受信可能なアジア衛星TV一覧
45 Information 新作映画紹介 & Convention
46 市民メディアの現場から ⑭ 取材・文/鈴木賀津彦
47 自他傍和囲我也(じたばたわいがや) ⑮ 文/穂積 融
48 ワハハ本舗 喰始のエンターテイメントのツボとボツ ⑯ 文/喰 始
49 Official Information
日本CATV技術協会 / 日本ケーブルラボ / CRI
51 News File 2024年9月6日~10月1日
55 脳裡のアトリエ訪問 ⑰ text by 岡本泰彰

DATA

- 30 CS-CHANNEL RANKING
56 定期購読のおすすめ
57 購読オーダーシート
58 バックナンバー

※福田 淳氏の「考えるメディア」は、今号もお休みさせていただきます。

〈読者の皆さまへ〉

「DATAページ」(各プラットフォーム別加入状況および業界動向データ、CS/BSバイテレビ接触率ランキングなど)の掲載を今号も見送ることとなりました。上記各種データは、誌面には掲載していませんが、2024年10月10日に弊社HP (<https://www.satemaga.co.jp/>)にPDFにてアップしております。お手数ですが、こちらから閲覧くださいますようお願い申し上げます。

2024年10月10日

サテマガ・ビー・アイ(株) 月刊「B-maga」発行人 一瀬悦子 / 編集長 池和田一里



有料放送&VODビジネスがわかる! 新社会人にもオススメの一冊



メディア融合時代到来!

【コンテンツ至上主義】視聴者が「選ぶ」メディアは?

多チャンネル放送研究所 + 音 好宏(上智大学教授&多チャンネル放送研究所所長) 編著

急速に台頭してきた有料動画配信サービス(OTT)の利用実態や、その潜在的ニーズ等を明らかにするとともに、多チャンネル放送に与える影響、多チャンネル放送とOTTとの関係等を分析。メディア融合時代の多チャンネル放送の今と未来を読み解きます。

定価:2,200円(税別)

- 編著:多チャンネル放送研究所 + 音 好宏所長
- 編集・発行:サテマガBi
- 発行日:2016年12月25日
- ページ数:182ページ
- サイズ:A5判



※購入は大手書店、Amazon、サテマガBi HPにて



CLOSE SHOT

WOWOW過去最大の大作、連続ドラマ『水滸伝』の制作決定を発表

(株)WOWOW(東京・港区、山本均社長)は9月19日(木)、都内で定例会見を開き、今後展開する大型企画として、連続ドラマ『水滸伝』の制作が決定したことを発表した。プレゼンでは、同社ドラマ制作部の大原康明プロデューサーが、



(株)WOWOW 山本均社長

三による、全19巻累計発行部数1,160万部を超える歴史大河小説だが、その壮大なスケールから困難といわれた映像化に挑むに至った経緯を次のように説明している。「『水滸伝』は、理不尽と戦い、未来を切り開こうとする者たちの生き様を描いている。この作品を通じて、閉塞感のある現代を生きる人々に光を当てたいという思いが強かった」。

物語の主人公・梁山泊の頭領である宋江を、織田裕二が演じることも発表。他にも、日本を代表する豪華キャストが勢ぞろいする予定で、今後情報解禁をしていくとした。監督は、映画『沈まぬ太陽』や『Fukushima 50』など、数多くの人間ドラマを描いてきた若松節朗氏。脚本は、舞台



(株)WOWOWドラマ制作部の大原康明プロデューサー

「キングダム」など数々の作品を手掛けた藤沢文翁氏が担当する。

現在、シナリオ開発やロケハン、衣装・小道具合わせを連日行っている段階で、制作準備も佳境に入っているとのこと。今年の12月からクランクインし、来年半ばまでの長期間で国内外での撮影を行う予定とのことだ。